

府中市図書館協議会
提言

令和3年1月
府中市図書館協議会

提言にあたって

府中市図書館協議会（以下、「当協議会」という。）は、平成31年4月に府中市（以下、「市」という。）が図書館法に基づき、図書館奉仕について図書館長に対して意見を述べる機関として設置した府中市教育委員会の附属機関です。当協議会は、図書館長から令和2年7月27日付で、「新型コロナウイルス等の感染症拡大時の図書館サービスの在り方」について協議を行い、その結果を報告するよう依頼を受けました。協議に当たり、コロナ禍の中央図書館及び地区図書館の現状や課題の把握が必要であり、市から、図書館の感染症拡大防止対策や臨時休館中のサービス状況について報告を受けるとともに、再開館後の利用状況や「ルミエール府中利用者満足度調査」の集計結果（速報値）等から見られる図書館の課題やサービスの在り方について、計3回にわたり協議しました。

市内には、中央図書館をはじめ、12館の地区図書館があり、市民が利用しやすい、地域に根差した図書館サービスの提供を担っています。また、図書館は社会教育施設として、市民が必要とする様々な情報を提供し、地域や個人が抱える課題解決に資する重要な場であると言えます。こうした中、市では新型コロナウイルスの感染拡大により、書架への立ち入りの制限、利用者登録やレファレンス・サービスの休止、更には、図書館を臨時休館する等、未だかつてない事態に直面しました。図書館は情報提供機関であり、いかなる時も情報を提供し続ける必要があります。今後、新型コロナウイルス等の感染拡大時においても、図書館サービスを継続し、市民の皆様に図書館を安全かつ最大限にご利用いただくため、委員は市民の代表として真摯に協議し、提言の作成に当たりました。

令和2年度府中市図書館協議会

会 長	齊藤 誠一
副会長	栗原 浩英
委 員	岩久保 早苗
委 員	川口 克巳
委 員	島田 文江
委 員	清水 はるな
委 員	茅原 幸子
委 員	森岡 耕平
委 員	森田 裕子
委 員	横山 岳

令和2年度府中市図書館協議会提言

1 非来館型サービスの充実について

今回の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い図書館は休館を余儀なくされたが、利用者が図書館に来館しなくても実施できるサービスがあり、それを検討しておく必要がある。ただし、利用者が電子的な環境にないこともあり、その点への配慮は必要である。

- (1) 電子的情報源には、「電子書籍」「電子ジャーナル」そして「データベース」がある。特に、電子書籍の導入や充実は重要である。有料のコンテンツが多いが、これらの情報源を自宅で活用できるように整備すること。
- (2) 図書館の基本的なサービスである「レファレンス・サービス」を電話やメール等を使って利用できるようにしておくこと。また、最近ではオンライン会議システムでリアルタイムの画像を見ながらコミュニケーションができるようになっている。このような仕組みの活用も検討しておくこと。
- (3) 図書館資料を宅配するサービスも考えられる。当然配送料の問題があり、図書館が全て負担をすることは難しいかもしれない。受益者負担となる可能性もあるが、安価で対応できるような仕組みを考え、利用者が望む場合には、資料の宅配を行うことも考えること。なお、現行のハンディキャップサービスの宅配については、従前どおり実施していくこと。
- (4) オンライン会議システムを使った利用案内や講演会の実施なども考えること。

2 場としての図書館空間の確保について

コロナ禍でも「図書館に行きたい」「図書館で直接本を選びたい」という要求は多かった。図書館が市民の知的空間として機能しており、施設利用を望む声に応える必要がある。当然、感染のリスクは高まるわけであるが、感染のリスクを減らす対応を考え、それを守ってもらいながら図書館空間を使ってもらうことを考えていく必要がある。そのために現在行われている対応を検証し、感染症が拡大している時には、適宜対応を取りながら図書館空間の利用を保障していただいたい。また、感染防止対策については、図書館側だけの対処ではなく、利用者の理解と協力が不可欠であるため、感染防止対策の取組内容を、利用者へ分かりやすく周知することが必要である。

- (1) 三密を避ける対応（エレベータ内、机・椅子の間隔確保等）
- (2) 手洗いの励行

- (3) マスクの着用の推奨
- (4) 消毒液の設置、館内施設の消毒作業
- (5) 滞在時間の管理
- (6) 返却本に対する対応（ブックポストへの返却や一定時間のストック）
- (7) 飛沫拡散防止パネルの設置
- (8) 館内の換気と加湿

3 広報対応の充実について

今回の対応でも市民への広報活動は、重要な意味を持っていた。休館に伴うお知らせや感染拡大防止に対する図書館の取組、また市民にも協力をしてもらいたいことなどをホームページに掲載していた。ホームページやSNSなどは、速報性が高く有効な情報伝達手段であり、活用の充実を望みたい。ただ、このような電子媒体を使えない人もいる。ホームページやSNS以外の広報手段（ポスターや市広報紙等）についても重要な広報媒体として、分かりやすいお知らせを考えていく必要がある。

4 職員の安全確保について

職員の安全確保についても十分に留意してもらいたい。図書館サービスを支えているのは職員であり、自己管理として体調チェックや検温を徹底し、自己の安全を守っていただきたい。それが市民への安心・安全なサービスの提供につながる。市としての危機管理マニュアルに従いながら感染予防を徹底してもらいたい。

5 感染症に関する情報源の充実と提供について

図書館は、情報提供機関である。様々な感染症に対する正確な知識や正しい理解が感染症予防にもつながる。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報は言うに及ばず、様々な感染症に対する情報を図書館で取りそろえ、市民に提供していくことを考えてもらいたい。

おわりに

今回、これまでに経験したことのないパンデミック（感染症の世界的大流行）が起きている。日本においても様々な混乱が生じ、図書館も例外ではなかった。市民も仕方がない事態であることは分かりながらも、いつも使っている図書館が使えない事態に戸惑いもあった。

このような事態は、今後も起きる可能性はある。否、必ず起こると言える。その時のために今回の事態を検証し、備える必要がある。今回の図書館協議会の報告・提言が今後活かされることを望みたい。

令和2年度府中市図書館協議会委員名簿

(敬称略、五十音順)

NO	氏名	選出区分	選出母体	備考
1	岩久保 早苗	社会教育関係者	生涯学習審議会	
2	川口 克巳	公募市民	公募市民	
3	栗原 浩英	学識経験者	東京外国語大学附属図書館	副会長
4	齊藤 誠一	学識経験者	千葉経済大学短期大学部 大学総合図書館	会長
5	島田 文江	学校教育関係者	府中市立南町小学校	
6	清水 はるな	家庭教育の向上に資 する活動を行う者	府中市立府中第二小学校 図書ボランティア	
7	茅原 幸子	公募市民	公募市民	
8	森岡 耕平	学校教育関係者	府中市立府中第一中学校	
9	森田 裕子	家庭教育の向上に資 する活動を行う者	府中市立図書館 ハンディキャップボランティア	
10	横山 岳	学識経験者	東京農工大学 府中図書館	

- 1 根 拠 府中市図書館条例
府中市図書館条例施行規則
- 2 任 期 令和3年5月27日まで
- 3 定 員 10人以内

令和2年度 府中市図書館協議会報告書

開催日	出席委員	傍聴者	議題	意見等
第1回 7月27日 (月)	齊藤 誠一委員 栗原 浩英委員 川口 克巳委員 島田 文江委員 清水 はるな委員 茅原 幸子委員 森岡 耕平委員 森田 裕子委員 横山 岳委員	1名	新型コロナウイルス感染症関連時系列	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回、コロナ禍の緊急事態ということで図書館を臨時休館にしたことはやむを得なかったと思う。 ・図書館の開館・閉館等の決定について現場の意見が重視されている点は良かった。 ・図書館ホームページでの案内は目立つような工夫がされており、見やすかった。 ・図書を消毒液で拭いたり、紫外線に当てる除菌の効果は検証段階だが、資料保存の観点から考えるといかがなものか。 ・資料を扱う前後の手洗が大切と思われる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館を本格的に再開していくと返却図書も増え、一定期間取り置きをしておく場所が確保できなくなってくるので、対応を検討する必要がある。 ・地区図書館の開館状況に関する表示・案内等がわかりにくかった。施設ごとに工夫し、わかりやすい掲示物の作成に努めた方が良い。
			緊急事態宣言中の各図書館サービス状況	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童クラブへの児童書の貸出が迅速で良かった。子どもの読書環境を確保するためにも大切だと思う。 ・(再開直後の)児童向け企画おたのしみ袋について、図書館に足を運んでもらうことにつながるような良い取組だったと思う。
第2回 10月12日 (月)	齊藤 誠一委員 栗原 浩英委員 川口 克巳委員 島田 文江委員 清水 はるな委員 茅原 幸子委員 森岡 耕平委員 森田 裕子委員 横山 岳委員	1名	新型コロナウイルス等の感染症拡大時の図書館サービスの在り方について	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休館中も図書館の蔵書データを公開し続けている点は良かった。 ・情報の迅速な伝達がこれからも重要だと思う。指定管理者制度を導入している他の施設では、この点について連携がうまくいかなかったところがあると聞いたので、昨年、「市と事業者が共同で図書館を運営するのが良い」と答申をまとめたのは、こういった事態にも対応できるのでとても良かったと思う。
			府中市立図書館イベントの感染症拡大防止対策について	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館でのイベント開催にあたって、参加者が密にならないよう間隔を確保し、マスクの着用や検温の実施、手指の消毒等感染防止対策を実施しており良いと思う。 ・対面朗読について、個室ではサーキュレーターを用いた換気や飛沫防止フィルムの設置等の対策がとられており、良いと感じた。
			中央図書館・地区図書館利用状況比較について	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館へ行ってもいいの不安に思っている児童や保護者が多かったのではないかと感じた。また、実際に子どもからそのような不安の声を聴くこともあった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この度のコロナ禍で、中央図書館で実施している利用者の声を聴く機会を、地区図書館でも設けた方が良い。(利用者向けのアンケートや地区館職員へのヒアリング等)
			非接触型図書館サービスについて	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスは対面でのやり取りが大切なので、チャット(※1)やテレビ電話でのレファレンスサービスは有効だと思う。(※1 ネットワーク上のリアルタイムコミュニケーション) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・非来館型サービスの検討も重要だが、図書館は人が集う場所なので、図書館に足を運んでもらうことにも気を配っていく必要がある。
			電子書籍について	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍を導入することで、活字の拡大や読み上げ機能等、ハンディキャップサービスの充実にもつながると思う。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本棚で本を選べるというのは重要だと思う。電子書籍でそれをするのはできないので、紙資料も大切にしていける必要がある。 ・導入にあたっては、誰もが使えるような環境を整えることが重要なので、利用者にレクチャーをしてもらえる機会があると良い。

令和2年度 府中市図書館協議会報告書

開催日	出席委員	傍聴者	議題		意見等
<p>第3回 12月14日 (月)</p>	<p>齊藤 誠一委員 栗原 浩英委員 川口 克巳委員 島田 文江委員 清水 はるな委員 茅原 幸子委員 森岡 耕平委員 森田 裕子委員</p>	<p>1名</p>	<p>新型コロナウイルス等の感染症拡大時の図書館サービスの在り方について</p>	<p>ルミエール府中利用者満足度調査集計結果、中央図書館・地区図書館の職員ヒアリングシートについて、その他</p>	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール配信等、利用者が自動的に情報を得られるような工夫をしてほしい。 ・コロナ対策実施に当たって運用を整理し、サービスが低下しないよう、工夫して取り組んでほしい。 ・GIGA スクール構想と連動して、図書館として電子書籍の活用などを検討していくことが重要だと思う。 ・教育の現場において、スマートフォン・タブレットの導入などが大変重要であると感じた一方で、学習にあたってインターネット情報だけではきちんとした調査を行って知識を身に着けるという点に不足があることも感じる。実際に本を手にとったり、図書館の書架で資料を探したりすることで得られる知識・経験がとても大切である。ICT ツールの導入・活用を進めつつ、紙の資料に接する機会を提供する場として、図書館がその中核を担うべきだと思う。 ・インターネットの情報だけに頼るのは、「信頼性」「再現性」「情報の新しさ」の点について問題が生じやすい。インターネット情報を活用していくにあたっては、情報リテラシー（情報をどのように使うか）の教育も重要になってくると思う。 ・（電子書籍を導入する場合）電子書籍でも様々な分野の資料が提供されているため、選書にあたっては、資料の性質・特性を加味するなど、より配慮が必要となると思う。 ・子どもたちを図書館へ引きつけるような仕組みを考えていく必要がある。（子ども司書講座、調べ学習コンテスト等） ・安心して図書館へ来てもらうために、子どもに焦点をあてた広報を行ってみてはどうか。（子ども限定で利用できる日を設定する等） ・本に接する環境が多様化する中で、電子書籍の導入検討も自然な流れではあるが、急速な環境変化の影響も読書（図書）離れの要因ではないかと思う。子どもが本に触れる機会を確保していくためにも、調べ学習やブックトーク等で図書館と学校で連携をしていくことが大切だと思う。